避雷器
取扱説明書付録

文書番号:MQDDK-130724-10

Rev. 1.0

このたびは、弊社避雷器をお買い上げいただき誠にありがとうございます。製品を正しく、安全にご使用いただくために、使用前には必ずご購入製品の取扱説明書と、この取扱説明書付録ををお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してしていただきますようお願いいたします。

配線要領

⚠ 布線方法

(1)サージ侵入側と被保護計器側の配線は別のダクトに納め、雷サージからの誘導を軽減するために20cm以上の間隔距離を保ってください。(互いに平行にならないように布線してください。)
(2)サージ侵入側の屋外ケーブルは、地中に埋設する(避雷針や架空地線の接地極から離れた場所)か、架空ケーブルの場合はなるべく地表近くに架設し、架空地線やシールドを用いて、誘導雷を軽減してください。
(3)避雷器と被保護計器間の配線は、被雷効果を高めるために出来るだけ短くしてください。また、シールド線の処理方法を誤ると回り込みが生じ、逆効果となりますので注意してください。(図1参照)

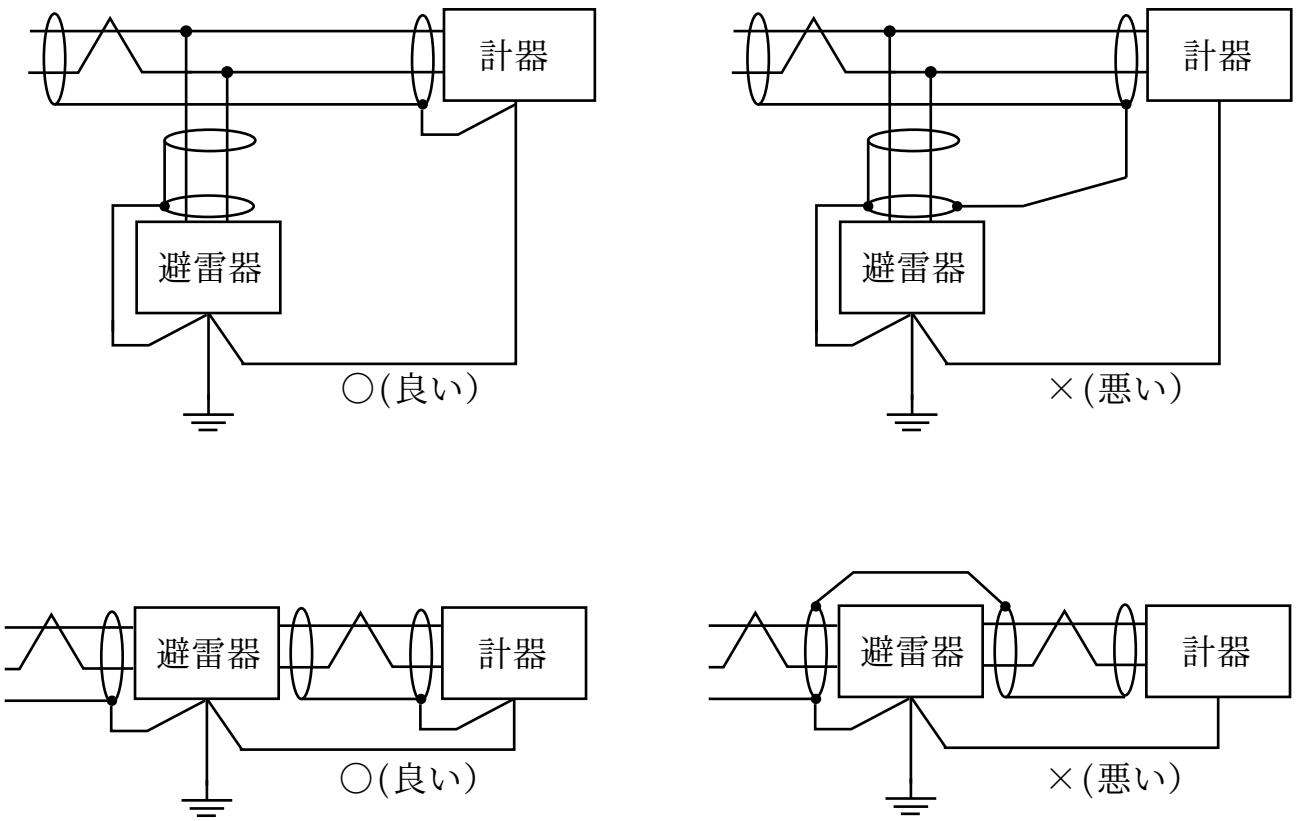

図1. シールド線の処理

エムティティ株式会社
東京営業所:〒160-0008 東京都新宿区三栄町11-4 Tel:03(5379)8641㈹ Fax:03(5379)8648
つくば営業所:〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-16-10(三井生命筑波学園ビル) Tel:029(852)8521㈹ Fax:029(852)8523
名古屋営業所:〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-23-13(大同生命ビル) Tel:052(561)1595㈹ Fax:052(561)3375
大阪支店:〒532-0003 大阪市淀川区宮原2-14-14(新大阪グランドビル9階) Tel:06(4807)4501㈹ Fax:06(4807)4550

⚠ 接地方法

(1)避雷器と被保護計器の接地は、図2に示すように避雷器側で行ってください。被保護計器側接地又は分離接地すると保護効果が失われることがありあります。(避雷器接地端子と被保護計器との接地線は2sq以上、長さは極力短くしてください。)
(2)避雷器の接地端子とアースバー等の接地線は2sq以上とし、長さは50cm以下としてください。
(3)接地抵抗は100Ω以下(D種接地)としておりますが、10Ω以下(C種接地)にすれば、より避雷効果が期待できます。
(4)本避雷器を複数個連続して取り付ける場合は、図3のようにアースバーを用い接地線を接続し、一点接地して下さい。(接地線は2sp以上とし、接地極までの長さは50cm以下としてください。)
(5)避雷器の接地線の長さが長い場合、接地線のインダクタンス分の電位上昇電圧が被保護機器にかかることになるため、接地線は極力2sq以上の太い線を使用し、長さを50cm以下にするようにしてください。
(避雷器は壊れずに被保護機器のみ故障する可能性があります。)

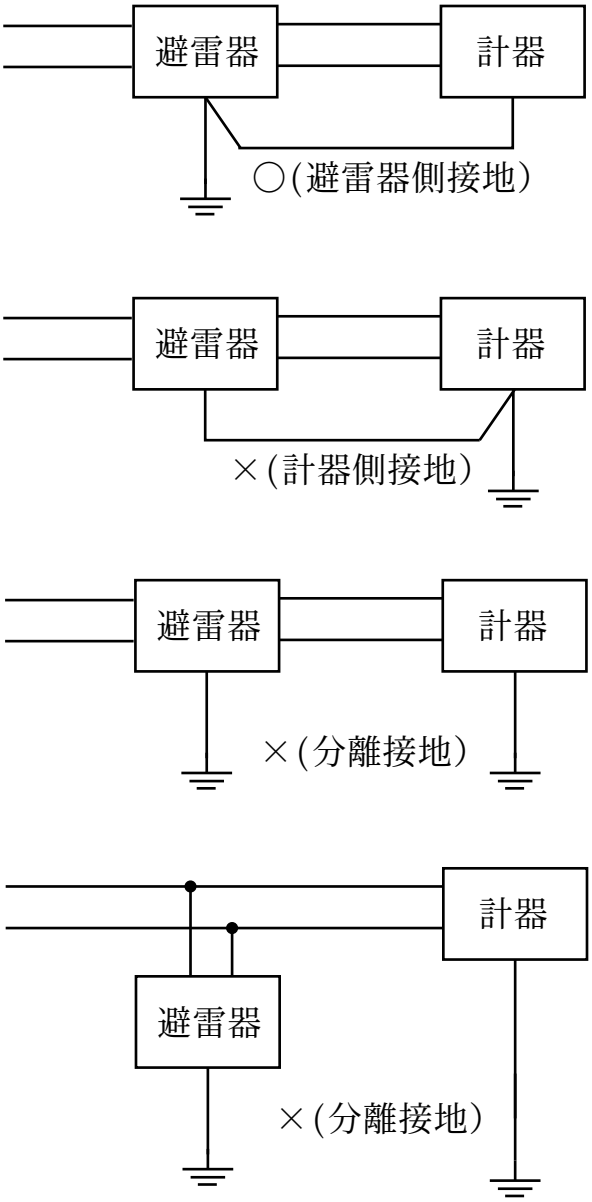

図2. 接地

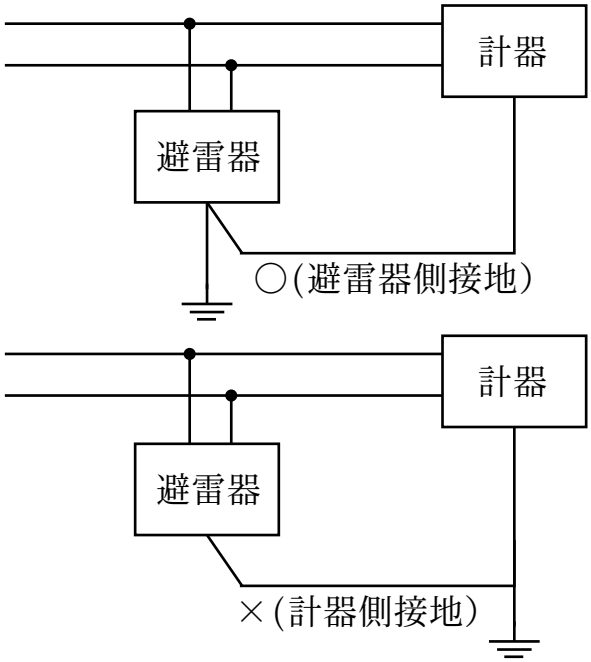

図3. 複数台接地の例